



山梨県猟友会主催 射撃大会

伊東真由 県大会出場決定

さん



伊東 真由 (いとう まゆ)

株式会社TreeLumber

丹波山村の林業会社で活動しながら、
文化財保存会にも所属。森林インストラクターの資格を持つ狩猟女子。

四方を深い山々に囲まれた山梨県丹波山村は、古くから狩猟文化が根付いており、親子代々に渡って狩猟を担ってきました。しかし、人口減少に伴い、氏族での将来的な後継者不足が危惧されています。

近年は獣害による農作物被害が深刻化しており、狩猟文化継承と有害鳥獣駆除を担う若手ハンターの育成が急務となっています。移住者の中にも狩猟を始める人がおり、令和4年度に協力隊に加わった伊東さんもそんな有志の一人です。猟友会丹波山分会に所属し、有害駆除活動や射撃練習向上、銃砲安全管理を目的としたクレー射撃を行っています。

例年、射撃の県大会は、祇園祭と重なることが多かったですが、今年の大会は7月20日(土)に開催のため、参加できるとのこと。丹波山村からは、予選を勝ち抜いた酒井 由紀夫さんと、女性部門で伊東 真由さんがフィールド射撃部門で出場します。村民の皆さんの応援をよろしくお願い致します。



協談活志

「協力」「対談」「活動」「志」の四つの要素を融合させたもので、元協力隊の現在の活動とその背後にある思いを伝えるシリーズです。

きょうだんかっし



農事組合法人丹波山倶楽部

Mochizuki Noriyuki

望月 敬之

令和2年4月から令和5年3月まで地域おこし協力隊として活動。在任中から活動していた丹波山倶楽部に就職。在任中に結婚、一子を授かり、父として日々子育てを楽しんでいる。

協力隊時代に家族を持つ

地域おこし協力隊員を卒業した人に、今の暮らしと仕事についてインタビューする「協談活志」第三回は、在任中に家族をつくった望月敬之さんです。

今の職場を選んだ経緯は

望月当時の役場の協力隊担当者からは、「子供たちのガキ大将的な感じになって」、と言われました。正直、右も左もよくわからない中で色々試しましたが、企画が通らず、悩んでいた時に、よく顔を出したのが今の職場でした。農業法人だけれど農業は全体の業務の2割くらい。私は農業が一番好きですが、他の業務内容も面白いし、この村らしい仕事だなと感じたので、協力隊三年目に丹波山倶楽部に就職を決めました。

任期中に結婚されましたが、不安はなかったですか

望月結婚に関しての不安は、あまりなかったです。ただ、当時は単身者住宅に住んでいたので結婚すると引越す必要があり、なかなか家が見つからず、協力隊を辞めて丹波を出ることも考えました。そうならず済みましたけどね。

丹波山で子育てはしやすいですか

望月子育てはしやすいですね。協力隊を卒業してすぐに育休にも入れましたし、とても助かりました。休みはしっかり取れますが、土日が仕事になることもあるので、周りとの休みが合わないこともあります。これは仕方ないと思っています。これからもこの村で家族と共に暮らしを楽しんでいきます。



取材後記

若くして地域おこし協力隊員として丹波山村にやってくる人は多いです。しかし、在任中に結婚、子供を授かるというケースは稀かも知れません。稀ではありますが、それゆえ尊く、眩しく見えました。

鈴木梨奈さん卒業



2年3ヶ月間、丹波山村で暮らせたことを幸せに思います。大変お世話になりました。貴重な経験をありがとうございました。